

今日

機能とエンターテイメント

木のように素敵な丸太で



角永和夫:『形にしたい木を選びます。』

--Craig T. Kojima による Star-Bulletin の写真

文: ロイス・テイラー

Star-Bulletin Writer

角永和夫は約12フィートの長さの杉の丸太を受け取り、突き板のこぎりでそれらを長い道のりを経て段ボールの薄いスライスにスライスし、それらを再び接着します。これは高度な大工の練習のように聞こえるかもしれませんが、芸術のユニークな形です。

角永の作品は金曜、ニュースビルのロビーにあるコンテンポラリーアートセンター、605 Kapiolani Blvdで展示されます。見た目以上にアピールできるのも魅力の一つ。作家によると、木材は他の方法で視聴者と相互作用します。ギャラリーでは杉の刺激的な香りが際立ち、角永によると、注意深く耳を傾けると丸太が伸び縮みす

るのを聞くことができるという。

角永は作品が収められた長い木箱を持って町に到着し、クリスマスには子供のように開梱に参加した。彼は、彼の婚約者として識別された彼の通訳、本家由美子を通して彼の仕事を議論するのに十分なほど長く止まった。

36歳のアーティストは、東京の北、石川県鶴来町に住んでいて、彼の家族は杉林と製材所を所有しています。原料とそれを簡単に操作できるツールを使用して、角永はログに独自のメディアムソーを開発しました。

角永は自分のニッチを見つける前に、建築学校に短時間通い、その後絵画を学びました。それは手元に最も近いものだったので、彼はその丸太を彫るというアイデアが彼に思い浮かぶ前に家の森を描きました。

「子供時代から、私は木を見ながら育ちました」と彼は日本語で言った。「冬になると、切り倒される前に山に行って木を見ます。彼らは非常にまっすぐに成長し、成長するにつれて慎重に剪定されるため、結び目はありません。

「自分の欲しい木を形で選び、春先に雪が溶けるので伐採します。日本の春はとても湿っていて、すぐに作業を始めます。」

木がまだ緑である間、樹皮は4人のチームによって取り除かれます。彼らは鋭いナイフと

彼らの手を使って、丸太から樹皮をこすり、引き裂きました。「樹脂がまだねばねばしている間、樹皮は非常に簡単に剥がれますが、それが乾くと、剥がすのが非常に難しくなります」と角永は説明した。

木は切り倒されたときに70～80年前のもので、一部は地面レベルにあるため基部は他の幹よりも広く、他の樹木はより高いためログは電柱のようにほぼ完全に円筒形になります。丸太はその後、4時間のトラック乗車で名古屋まで製材所まで運ばれ、そこで角永はベニヤ刃を使用します。

そこで、丸太はその長さに沿ってスライスされ、それから再び組み立てられ、別々のスライスが接着されます。他の作品では、彼は丸太の周りや皮をむいて、芯を皮で覆いました。または、彼はログに切り込みを彫り、時々くさびを切り取ります。木の季節になると、スライスがわずかに反り、角永は再び丸太が生き物であるようだと言います。

彫刻の最終的な形が明らかになるのは、スタジオで丸太が乾くときだけです。乾燥プロセスでは、丸太が割れて、木の独特

の構造が明らかになったと彼は言った。いくつかの丸太は光沢のある黄褐色で、他はほぼ大理石のような白です。全体を通して同じ色のものもあれば、暗い色のコアのものもあります。

「幹の内側の木の中心は、木が斜面または平らな地面で太陽の下で育ったか日陰で育ったかによって、暗いか明るい」と角永氏は語った。「光沢のある黄褐色の表面は、丸太を太陽の下に置き、それを回転させて、すべての表面が同じ量の日光を得られるようにしたものです。木を日焼けさせます。

「一部の丸太は植物油で磨かれています。油を袋に入れ、丸太にこすりつけます。昔、日本の人々は同じように床や家の柱を磨きました。動物油を使用すると、それは木材と調和しません。私は美しさを作り出すのではなく、すでにそこにある素材の自然の美しさを発見します」とアーティストは言った。

角永も、同じテクニックを使用して、いくつかの小さな作品を展示していますが、より短い木材を使用しています。これらの長さは11～15インチで、多くの場合、個人のコレクターが購入します。価格はおよそ1,500

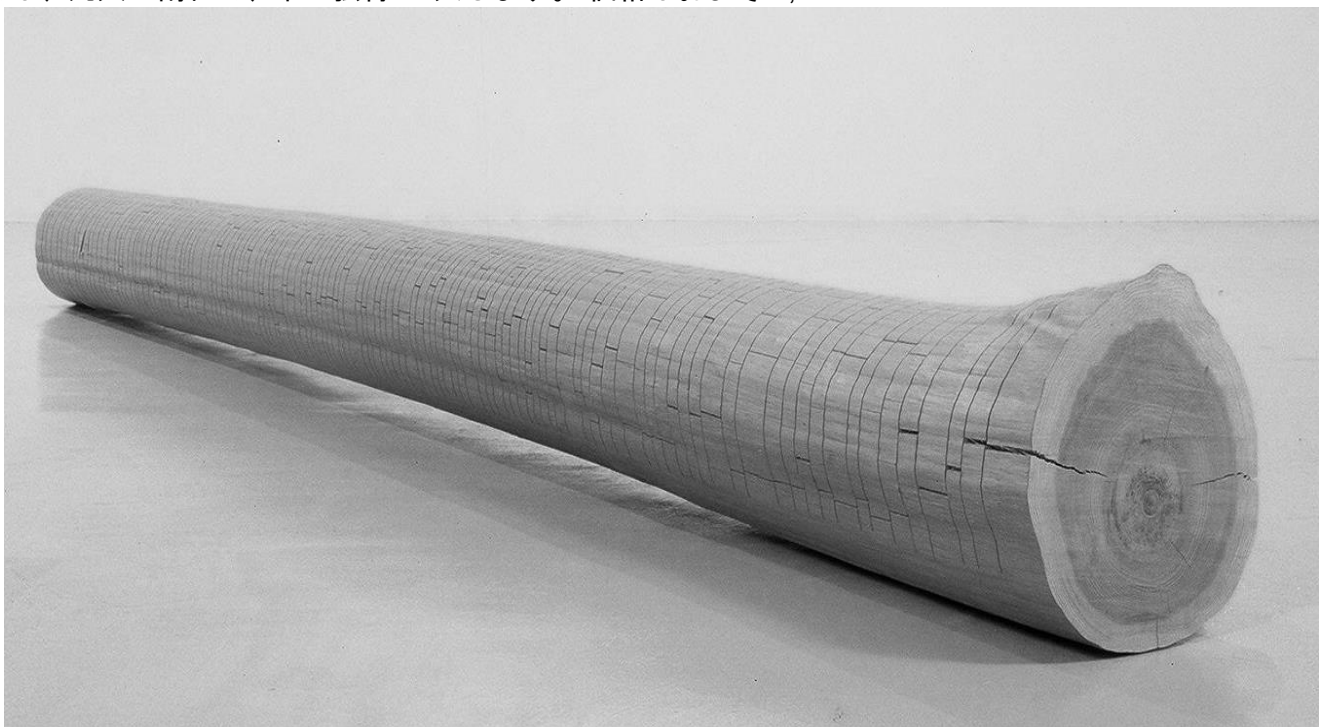
ドルですが、約4フィートの長さのピースは3,000ドル近くです。

通常博物館で購入される全長の丸太は、10,000ドルから15,000ドルの費用がかかります。メディアの脆弱性のため、彼の作品は、ショッピングセンターやホテルのロビーなど、頻繁に触れる場所には適していないと語った。

木の薄片は空気中の湿気の量でしわやカールしているため、簡単に割れます。コンテンポラリーアートセンター全体に「Do Not Touch」の看板があり、このショーはメッセージを補強するためにボランティアによって警戒されています。しかし、それにもかかわらず、それは非常に落ち着いた展示であり、異なる時間に、異なる天候で複数回訪れる必要があるものです。毎回微妙な変化があります。

ギャラリーは月曜日から金曜日の午前8時30分から午後5時まで開いています。土曜日の午前8時30分から正午まで。展示品は1月2日まで展示され、入場は無料です。

角永和夫：“自分の好きな木を形で選ぶ” - スター・ブレティン
写真：クレイグT.コジマ



'Wood No.8 R by Kadonaga.